



平成 21 年 11 月 6 日

各 位

上場会社名 株式会社淀川製鋼所
 代表者名 代表取締役社長 國保 善次
 (コード番号 5451 東証・大証 第1部)
 問合せ先 経理部長 林 真生
 (TEL 06-6245-1113)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 8 月 7 日の決算発表時に公表した平成 22 年 3 月期(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)の通期における業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

平成 22 年 3 月期通期業績予想の修正(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(金額の単位:百万円)

(1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	136,000	100	1,200	△3,300	円 銭 △19.91
今回修正予想(B)	131,000	1,000	1,700	△3,200	△19.31
増減額(B-A)	△5,000	900	500	100	—
増減率(%)	△3.7	900.0	41.7	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	194,601	5,138	6,612	1,419	8.57

(2) 個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	88,000	500	2,100	△2,600	円 銭 △15.58
今回修正予想(B)	85,000	1,000	2,400	△2,800	△16.78
増減額(B-A)	△3,000	500	300	△200	—
増減率(%)	△3.4	100.0	14.3	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	117,644	2,282	4,415	1,609	9.64

修正の理由

当社グループの主力製品であります鋼板製品につきましては、鋼材市況の世界的な低迷の影響を大きく受けております。わが国の景気動向は不透明で鋼板の需要は低迷を続けており、海外におきましても、第3四半期以降の販売価格の改善は困難と推測され、輸出の量的な拡大は望めない環境下にあります。従って売上高につきましては、前回発表の業績予想を若干下回る見通しとなりました。このような状況下、当社グループは受注・販売活動に注力してまいりましたが、利益面につきましては、製販一体となったコスト削減努力および工場稼働率の向上により、前回発表の業績予想を上回る見通しとなりましたので、修正いたします。

なお、個別業績予想の当期純利益につきましては子会社の整理損失を織込んだことにより、前回発表の業績予想を下回る見通しとなりました。

以上